

モスクワ・スプリントの迷宮

スキーオリエンテーリング世界選手権大会 スプリント2007年2月26日 ロシア モスクワ

木村佳司

酒井佳子が世界選手権自己タイ記録の快走を見せた。モスクワで日本チームを待っていたのは-18の寒さだった。

厳寒のモスクワ

モスクワ郊外のプラーナヤにあるクロスカントリースキー場で、スキーオリエンテーリング世界選手権が行われた。開幕第一戦は会場周辺を使用したスプリント競技。1:5,000という大縮尺の地図を使用し、トレインには細かいトラックネットワークが用意された。

スプリント競技の朝は-18まで気温が下がり、硬い雪のコンディションとなった。通常の日本で使っているワックスだと、スキー板が滑らなくなってしまいう気温だ。



栄光のトップスタート

ジャンケンなら誰にも負けない高橋美和が、見事世界選手権のトップスタートを引き当てた。周囲には速い選手もいないので、そのままトップフィニッシュを飾った。

ロシアが男女とも優勝

男子はエドワード（ロシア）、女子はタティアナ（ロシア）が金メダルを獲得した。エドワードはすっかり世界選手権の顔となった。女子は1位から3位までの間がわずか3秒。しかも3位は同着2名という混戦だ。女子はロシアが金・銀・銅のメダルを獲得した。

選手のコメント

酒井佳子

そこそこのレース運びでした。ネッ



最後のラビリンス区間を抜けて、最終コントロールへ向かう酒井佳子。厳寒のモスクワの中、世界選手権が始まった。

トワークと地図の対応が甘いところがあり、そこでミスしています。

元木友子

ミスは少なかったのですが、まだまだ追い込みが足りなかったと思います。もっと前の選手を利用したほうが良かったと反省しています。

白鳥桂子

ルートミスが少しあるものの、大きなミスは少ない満足のレースができました。

高橋美和

トップスタート・トップフィニッシュということで、ひとりのんびり一人旅でした。ピステネットワークが細かくて対応できなかったです。

注) ピステ=コース

堀江守弘

レース自体はあっという間でした。最初は確実に行こうと思い、前半は落ち着いていきました。それでもちょっとミスをしてしまいました。これも含めて実力なのかなと思います。

元木悟

毎度の世界選手権と同じような結果になりました。急斜面の登りの途中で、女子ランナーの渋滞に巻き込まれてしまいました。

三浦裕司

ミスが多かったです。でも途中から明日のロングに向けて気持ちを切り替え、立て直しました。

スプリント結果

男子

1	エドワード	ロシア	0:13:20
24	堀江守弘	日本	0:16:52
54	元木 悟	日本	0:22:07
59	三浦裕司	日本	0:28:31

女子

1	タティアナ	ロシア	0:12:01
21	酒井佳子	日本	0:14:42
34	元木友子	日本	0:19:06
35	白鳥桂子	日本	0:19:35
36	高橋美和	日本	0:21:28

モスクワの迷宮

今回モスクワに到着して受け取ったプログラムにて、突然「ラビリンズ」区間をスプリント種目に取り入れることが発表された。

突然の発表に、前日のミーティングでは当然反発があったが、結局主催者の予定通りラビリンズ（迷宮）区間が設定された。

地図ではラビリンズが紫色で表示され、簡単な迷路をナビゲーションするというもの。ラビリンズ自体は70m×100mほどの広さだが、スプリント競技ではここに4コントロールが置かれた。



男子スプリント競技に使われた地図の一部。コースが会場付近を2回通るように設定されている。広大なフラットビステを持つ会場付近に人工的な迷宮（ラビリンズ）を作っている。

いよいよオリエンテーリングのスタジアム化もここまでできたかという印象を受けた。

今やTV・写真・Webキャスティングなどのメディアに受けないスポーツはメジャーとして残れない。如何にスポーツを視覚化するかに各スポーツがしのぎを削っている。

一例として、森のコースを走るクロスカントリー競技もスプリント種目が登場し、スタジアムの中だけで競い合うようになっている。先日札幌で行われたノルディック世界選手権では雪を札幌ドームに運びこんで行われたほどだ。

オリエンテーリングでもメディアや観客を意識して始まったスプリント競技だが、いよいよその競技フィールドさえも森から人工物に一部移ってきている。IOF（国際オリエンテーリング連

盟）によるオリンピック参加プログラムの一環として実施されている。



ラビリンズ区間で前の選手に迫る堀江。ラビリンズは赤いネットで作った迷宮で、観客から良く見える。観ていると違うルート選択をする人がいたり、時々迷っている人がいたり飽きない。

参加自体がラビリンズ

スキーオリエンテーリング世界選手権モスクワ大会のスタートラインに立つまでが迷宮（ラビリンズ）だった。

まずはロシア入国にあたってのビザがなかなか下りず、参加できないかと思ったほど。事実、イタリアチームはビザが間に合わず、前半のスプリント競技とロング競技に参加できなかった。

イベントのスケジュールが大会前日になってやっと説明されるわ、宿泊所が競技センターから離れていて、そこからの輸送バスがアテにならない状況



スキーオリエンテーリング世界選手権日本チーム
左上から、信原靖、木村佳司、堀江守弘、武石雄市、酒井佳子、高橋美和、元木悟、三浦裕司、元木友子、白鳥桂子

だわで、参加国から大会主催者に抗議が殺到してやっと改善される始末。

宿はモスクワオリンピックの選手村と思われるところ。しかし内部改装中で昼夜問わずトンカントンカンとやかましい。

宿ではワクシングする場所が無く、工事のお兄さんがたと交渉して、改装中の廊下にハダカ電球を設置してもらって、さらに電源を確保してやっとのことでワクシング作業開始。

断水、漏水、食事提供時間がバス時間と整合取れていない、などなど、あらゆるところで参加者ストレスが溜まる状況だった。

やっとモスクワのラビリンズを抜け、日本選手全員がスタートラインに立ったと思ったら、もうひとつのラビリンズがコースの中に待ち受けていた。



開会式の行進。旗手は三浦裕司と白鳥桂子ともに札幌在住者。

（木村佳司）